【吉野町】
端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	217	211	201	200	195
② 予備機を含む 整備上限台数	249	242	231	230	224
③ 整備台数 (予備機除く)	0	211	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	211	0	0	0
⑤ 累積更新率	0	100	100	100	100
⑥ 予備機整備台数	0	31	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	31	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0	12.8	12.8	12.8	12.8

(端末の整備・更新計画の考え方)

○令和2年8月に整備した「学習者用端末」が、整備後5カ年を迎える令和7年度において、全児童生徒（予備機含む）分を更新する。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：278台

○処分方法

・使用済端末を学校等公共施設で再利用：278台

○端末のデータの消去方法

・自治体職員が行う

○スケジュール（予定）

令和7年8月 新規購入端末の使用開始

令和7年8月 使用済端末の再利用開始

○その他特記事項

なし

【吉野町】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

本町の教育施設は小学校1校、中学校1校であり、それぞれ令和2年度および3年度に必要教室へ校内LAN整備工事を完了している。必要なネットワーク速度が確保できているかの判断のため、「学校のネットワーク改善について（通知）」（令和6年4月26日付け通知（6初情第2号））に基づき、各校の帯域測定を行ったが当面の推奨帯域を満たしているため、必要なネットワーク速度が確保できている学校数は2校、総学校数に占める割合は100％である。しかし、学校の使用感としては時折つながりにくいケース等があるという報告を受けているため、原因特定に努め対応していく。

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

- （1）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール
必要に応じて対応を検討する。
- （2）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール
必要に応じて対応を検討する。

【吉野町】

校務DX計画

本町では、学校独自のポータルサイト作成などクラウドツールを活用した教員間の連絡調整・会議等資料共有などの実践により業務改善に積極的に取り組んでおり、ペーパーレス化にもつながっている。今後はさらにデジタル化による働き方改革を進め、利便性をさらに向上させるとともに各部署の工夫により業務を効率化し、時間外勤務削減等を目指していく。また、学校と保護者との連絡ツールについて、令和7年度までにシステム導入を検討する。

校務支援システムについては奈良県域での全体最適なシステムの在り方を検討し、今年度末に迎える更改のタイミングにおいてスムーズに次世代の校務システムへと移行できるように取組を進めていく。

【吉野町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

第5次吉野町総合計画では、「未来を担う子どもたちの郷土愛を醸成し、確かな学力と主体的な行動力・判断力、豊かな人間性を育む教育を実践する」として方向性を示し、本町教育の6つの主な取組のひとつとして「ICT教育の推進」を掲げ、ICT環境整備や機器整備、系統的なICT教育・プログラミング教育の実施、電子図書館・デジタル新聞の活用などに取り組んでいます。

2. GIGA第1期の総括

令和2年8月に整備した1人1台端末は、導入期から教職員およびそれを支えるICT支援員等の活躍もあり、子どもたちに個別最適化された教育を届け、一人ひとりの可能性を広げています。特に中学校では日常の学校風景の中に、1人1台端末を一つの文房具として、あらゆる学習場面で日常的・主体的に活用する姿があります。小学校低学年の端末利用機会が少ないなど課題はありますが、教育現場でのICT利活用頻度は確実に増加しています。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末をはじめとするICTの活用を通じて、子どもの特性や習熟度に応じた個別最適な学びや、クラスメートと考えを比較・共有しながら学び合う協働的な学びを従来の教育実践とICTの効果的な組み合わせにより、主体的・対話的で深い学びの実現につなげていきます。GIGA第2期においての1人1台端末の整備については、県域での共同調達を通じて他自治体の先進的取組や環境整備状況についても参考にし、積極的に本町のICT教育に取り入れ、子どもたちの可能性を高めていきたいと考えます。